

広島県尾道市

学校

尾道市立瀬戸田小学校
尾道市立瀬戸田中学校

学校運営協議会

瀬戸田小学校・中学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

小学校・中学校PTA役員
公民館長
放課後児童クラブ総括支援員
大学教授
元学校教員
地域住民

など 9名

会議回数

年間平均 4 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働活動
瀬戸田中学校区
地域学校協働活動

地域と学校が共に支え合うコミュニティ・スクール

背景・取組概要

スクールミッション「地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展～コミュニティ・スクール事業の推進」
瀬戸田中学校区の強みは、地元の小・中・高校をかけがえのないものとして大切に思い、守り育てようとする地域の存在である。
「子どもたちは島の宝物」という思いをもって島内の 1 小 1 中 1 高の教育を充実してほしいという島民の切なる願いと、支援を惜しまない人々の存在がスクールミッションの実現を支えている。地域と学校のオール瀬戸田で未来を担う子供を育てている。

工夫・ポイント・特徴的な取組

○学校運営協議会
本学校運営協議会では、継続して学校の教育活動に参画するためには、「頑張らない、無理をしない、続けられることをする」という意識が大切であると委員で共有している。年間 4 回行われる学校運営協議会の場に学校から出された課題や困り感を、委員が自分事として受け止め熟議を通して学校運営の改善につなげている。コーディネーターは、学校との連携を密にとりながら、教育課程内外の活動に多様で適切な人材がボランティアとして参加できるよう地域や商店街等に働きかけ、学校と地域のつなぎ役として欠かせない存在になっている。

○地域学校協働活動
学習支援の会は、「夏休み中地域に友達がいない。一緒に宿題をしたい。」という児童・保護者の希望や、宿題指導ができないという学校の困り感の解決策として学校運営協議会で計画し、委員とボランティアだけで運営している。元教師や退職後瀬戸田に移住した人が指導者となり、児童との触れ合いにやりがいを感じている。夏休み中の6日間、連日120人を超える児童が参加し、分からないところを教えてもらったり、作品の更なる工夫をしたりして宿題を完成させた。

○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施
学校運営協議会委員が地域学校協働活動に参加し、成果や課題を持ち帰り具体的な改善策が練られることで学校と地域の連携がより深まり、活動が改善され充実している。委員は、日常的に学校を訪問して情報の共有を行っているので、自分ができることはすぐに行動しており、学校運営協議会では自分事としての発言が交わされている。

例えば、地元商店街を元気にしたいという 5 年生の思いを受けたコーディネーターの働きかけにより、しおまち商店街応援プロジェクトが立ち上がった。「しおまち商店街パンフレット」の作成に商工会理事をはじめ商店街を挙げての協力が行われた。完成したパンフレットは、商店街各店をはじめ公民館やしまおこし課等に掲示されている。今後、商店街の包み紙にできないかと取組の発展を目指した計画が練られている。

成果・効果

○「家庭では教えることが難しい科学研究や読書感想文などの指導をしてもらえるのでありがたい。地域に友達がいない。学習支援の会に行けば友達に会えるので、子供から行きたいと言ってくる。プールの地域開放日と重なったので、2倍楽しかったようだ。来年度も是非続けてほしい。」など、保護者から感謝の声も寄せられ、学校と地域の一体感が増している。
○アンケート（R5）の結果、児童の97.9%が“ふるさと学習は楽しい”と回答しており、生徒の82.9%が“住んでいる地域が好き”と回答している。このことから、児童・生徒は“ふるさとで学ぶ、ふるさとを学ぶ、ふるさとの人と学ぶ”ことの良さや、楽しさを感じていることが分かる。また、保護者の83.7%が“子供はふるさとが好きと思っている”と回答しており、地域と学校が協働して行う活動を保護者も好意的に受け止めている。

